

CompTIA Japan ITSC 2010 募集要項

提出物について

※ご注意※

CompTIA ITSC2010 は、CompTIA 認定資格「CTT+」(※1)のスコアリングガイド及び提出フォームの内容を利用していますが、提出要件や提出フォームのフォーマット及び選考につきましては、ITSC 用にアレンジしております。CTT+ パフォーマンス・ベースド・テストを受験いただく場合は、必ず「CTT+ハンドブック」を参照の上、指定の撮影方法、提出フォームにてご提出ください。

注:「CTT+(Certified Technical Trainer+)」の「Technical」は「精通した」の意で、「工業技術の」の意ではありません。

【ご提出いただくもの】

- ・ **インストラクションが撮影された、Windows Media Player で再生可能な動画ファイル**

※詳細の規定につきましては、本募集要項にて確認下さい。

- ・ **「ITSC 提出フォーム」**

【提出方法】

方法 1: 郵送にて、撮影された動画ファイルが入った「DVD」と「ITSC 提出フォーム」を提出

ご提出いただけるメディアは、DVD-R に限定されます。**必ず Windows Media Player で再生可能なファイル形式にて、お送り下さい。**

＝郵送でのご提出先＝

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 3-4-9 水道橋 MS ビル 7 階 CompTIA 日本支局

CompTIA Japan ITSC 2010 事務局 宛

連絡先: 03-5226-5345

方法 2: 「メール」にて、撮影された動画ファイルと「ITSC 提出フォーム」を添付

提出メールアドレス itsc@comptia.jp

「CompTIA ITSC2010 事務局宛」

必ず Windows Media Player で再生可能なファイル形式にて、お送り下さい。

【結果の告知】

上位入賞者の皆様につきましては、「CompTIA 人材育成サミット 2011」(2011 年 1 月予定)、および CompTIA 日本支局 Web サイトにて、発表いたします(2011 年 1 月初旬予定)。

【個人情報及びご提出いただく DVD 及び提出フォームの管理について】

- 「CompTIA Japan ITSC2008」及び「2009」でご応募いただきました DVD の採点は致しかねます。
- ご提出いただきました動画ファイル及び ITSC 提出フォームのバックアップを必ず取って下さい。紛失や破損には注意しておりますが、再度提出できるようにバックアップを取っていただくよう、お願いいたします。
- ご提出いただきました動画ファイル及び ITSC 提出フォームにつきましては、返却致しかねます。
- ご提出いただきました個人情報の保護につきましては、CompTIA 日本支局の個人情報保護ポリシーに基づき責任をもって管理いたします。
個人情報保護ポリシーにつきましては、http://www.comptia.jp/cont_privacy.html をご覧下さい。
- ご提出いただきました動画ファイル及び ITSC 提出フォームは CompTIA 日本支局にて「人材育成サミット 2011」から 1 年間保管し、ご本人の許可なく外部に提供することはいたしません(1 年後に個人情報・及びインストラクションに関わるノウハウの漏洩のなき方法にて破棄いたします)。

【ご提出いただく動画ファイル及び ITSC 提出フォームについて】

動画ファイル：**「ITSC スコアリングガイド 2010」で記載されていますスキルを、20 分間で実演することが求められます。**

要求されるインストラクションに関するスキルを十分に実演いただければ、動画ファイルに収められたトレーニングの種類やその表現方法、使用されている教材の種類や指導方法などに関しては、柔軟に評価いたします。

ITSC 提出フォーム：**インストラクションの準備や評価など、実演ができないスキルについてレポートをいただきます。**

1. 要求される「スキル」を全て実践していただくこと

当コンペでは、それぞれのスキル基準について平等な基準に基づいて評価されます。また、ある動作が複数のスキルの証明になることがあります。録画を成功に導くためには、定義されたスキルを順番に切り替えていただくよりも、むしろインストラクション全般が「流れ」としてまとまっており、スムーズな時間配分をご考慮いただくことが重要です。

※ご注意: 参加者(インストラクター)が提出いただいたメディアに映っていないトレーニングについては、評価対象にはなりません。

2. 評価基準のウェイトー受講者に「単に話しかけるだけではないインストラクション」であること＝受講者中心主義

ITSC アセッサー(※2)は、参加者(インストラクター)が、教授する内容に精通しているかを評価するだけではなく、さらに重要なのは参加者(インストラクター)が、受講者に対して、どれほど巧みに当該講習受講者の教材の内容への理解を促進しているかを重視します。

3. 当該講習の受講者を課題に集中させ続けること

最も良いパフォーマンスには、録画でカバーされる 20 分間について、当該講習の受講者や ITSC アセッサーに伝える簡単な導入部分(講習内容の主たる目的)が含まれています。

計画された講習を、最後まで終了しなければならない必要はありません。当該講習の受講者が 20 分間の時点までに学んだ内容を要約することや、当該講習の受講者に学んだ内容について要約することをお奨めします。

【撮影について】

参加者(インストラクター)は実施したい講習の計画を慎重に立てて下さい。「ITSC スコアリングガイド 2010」の「スキル」が全て取り上げられているかを確認し、ご提出前に下記を参照ください。

参加者(インストラクター)は、「ITSC スコアリングガイド 2010」の 12 の「スキル」を実演及びレポートされなければなりません。また、講習計画は、導入、中間部、及び結論が明確に構成されていなければなりません。その学習計画は、長い授業の一部であっても、独自の指導目的を持っている必要があります。長い授業の一部分である場合は、提出されたパフォーマンスが、授業のどの部分にあたるかという情報を必ず「ITSC 提出フォーム」に記載してください。また、1 つの動画につき 1 人のトレーナーの録画のみ、受領いたします(複数のインストラクターが構成する講義は無効とさせていただきます)。

録画のための環境整備

ご応募いただくトレーニング撮影には静かで十分に明るい場所を選び、声をはっきりと録音され、参加者(インストラクター)が使用する学習教材や参加者(インストラクター)の動きや講義中の質疑応答がきっちり録画されるような環境整備をお願いいたします。

応募いただく講習の規模

最低5人の成人の受講者が動画ファイルに写っていなければなりません。ITSC アセッサーが、受講者の存在や参加者（インストラクター）の動き、講義中の質疑応答が確認できるようにして下さい。

講義の信憑性

参加者（インストラクター）が実施する講義には信憑性がなければなりません。受講者は、受講前まで知りえない新しい知識やスキルを実際のクラスで学ぶ必要があります。不自然な講義状況は、参加者（トレーナー）の信憑性を下げることになることをご認識ください。

所要時間

動画ファイルへの収録時間は、全体で20分を超えないようにして下さい。22分が経過した時点で、それ以降の採点が行われませんので、ご了承ください。17、18分より短い場合、要求されたスキル分野を参加者（インストラクター）が十分に実演いただくには、時間的に不十分と判断される場合があるかもしれません。

収録済みの動画ファイルの編集

収録済み動画ファイルの編集は許可されていません。

収録済み動画ファイルの編集とは、内容をカットし、つなげたりすることです。しかし、受講者に新しいスキル取得の検証を実践（問題を解くなど）させるための時間として、参加者（インストラクター）は一度だけ一時停止し再スタートすることができます。極めて特別な事情がある場合は、2回目の停止が認められることもあります。例えば、実験演習のために場所を移動しなくてはならない場合、2回目の停止が認められることもあります。テープを停止する前にそれまでの活動が十分に記録されているかを必ず確認し、講習修了際に、及びどのように次のアクティビティへ移行されたかを確認できるように録画を再開してください。録画されたインストラクションは、実施された順番で提示されなければなりません。

「ITSC 提出フォーム」について

動画ファイルと同時に提出される「ITSC 提出フォーム」では、参加者（インストラクター）の準備や評価に関するスキルを明確に証明するものでなくてはなりません。

レビュー

正式に動画ファイルをご提出いただく前に、「ITSC スコアリングガイド 2010」を使用して、動画ファイルのレビューと自己採点を実施されることをお勧めします。「ITSC スコアリングガイド 2010」の全項目が、ITSC アセッサーにとって明確か、受講者は写っているか、視覚教材ははっきりと見ることができるか、画像や音声はクリアか、等をチェックしてください。

適切なフォーマットで動画ファイルを提出すること

「撮影を成功させるヒント」は、動画ファイルを作成するにあたってのガイドラインです。録画いただく動画ファイルには約20分間のインストラクションが撮影されていなければなりません。なお、ITSC アセッサーは、22分が経過した時点でそれ以降の採点は行いません。

DVD のフォーマット及び規格

DVD でご提出いただける場合は、DVD-R に限定されます。**必ず Media Player で再生可能なファイル形式にて、お送り下さい。**

撮影を成功させるヒント

- DVDでご提出いただくメディア場合は、新しい未使用のDVDをご使用下さい。
- 三脚を利用して下さい。ぶれている画像は、ITSC アセッサーにとって見づらいものとなります。
- グラフィックスや黒板に書かれた記述は、クリアで読めるものでなくてはなりません。実際には読めるものもカメラを通しては読みにくいことがあります。黒板やホワイトボードに反射する光にはご注意ください。ボード上に光沢のない紙を貼ってマーカーで書くと良いでしょう。
- カメラは1台の使用に限らせていただきます。教室の横にカメラを設置すると、参加者(インストラクター)と受講者の両方を写す事ができます。
- 撮影中カメラを動かす場合は、ズームレンズを一番ワイドにセットして下さい。映像のブレを少なく撮影することができます。
- 明かりが多いほど映像の質が良くなります。受験者は、提出物の質を高めるためにカメラライトを使用したいと思われるかもしれませんが、映像に光源が入らないようにしてください。例えば、ブラインドが開いている場合はカメラの後ろに窓がくるようにするときれいに撮れます。
- 音は、録画にあたり最も難しい問題の1つです。参加者(インストラクター)や受講者の声がとても聞きづらいことがあるかもしれません。人の耳に直接なら認識できる音が録画ではそうではないこともあります。
- 2、3 回試し撮りをし、マイクの感度をテストして下さい。受講者に大きな声を出すように指導して下さい。より良い質の音を出せるように別の外部マイクを取り付けてもかまいません。
- 扇風機やエアコン、実験装置のスイッチを切ってもかまいません。窓のそばで録画する場合、外の騒音(特に車などの音)が録音されてしまうようならば、別のマイク(カメラのマイクではなく)を使用することで、騒音を緩和することができます。
- 講義を開始する前にカメラが作動しているかを確認して下さい。開始から 2、3 秒の遅れが重要な情報を失うことになりかねませんのでご注意ください。

【「提出フォーム」の準備について】

参加者(インストラクター)は、念のため、「提出フォーム」のコピーを数枚とっておかれることをお勧めします。「提出フォーム」が一緒に提出されなければ、動画ファイルは採点評価することができません。

※1 CompTIA CTT+とは http://www.comptia.jp/cont_certif_08.html

Certified Technical Trainer+(CTT+)は、様々なインストラクター資格プログラムの重複をなくすために作られた、トレーニングのエキスパートによって定義づけられたインストラクター(またはトレーナー)としての業務能力を評価する認定プログラムです。出題範囲や試験問題は、すべて実際のインストラクター(またはトレーナー)により作成されています。

2次試験で構成され、1次試験のコンピュータ・ベースド・テストは、トレーニングの専門家としての経験や教育を通して取得した知識レベルを、2 次試験のパフォーマンス・ベースド・テストでは、実際のインストラクションを撮影したビデオ(DVD)で、定義されたスキルの実践力を評価します。

注:「CTT+(Certified Technical Trainer+)」の「Technical」は「精通した」の意で、「工業技術の」の意ではありません。

※2 ITSC アセッサーとは

以下の条件を満たした皆様により、ITSC のために構成された採点委員会です。

—CompTIA CTT+を取得している。

—ここ 1 年で、講師として 100 時間以上講義を行っている。

—ITSC アセッサーワークショップに参加いただいている。